

地域メッシュ統計について

地域メッシュ統計の概要

地域メッシュ統計とは、緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目（Mesh）の区域に分けて、ほぼ統一された方形に区切ったそれぞれの区域に関する統計データを編成したものである。この手法によれば、地域の実態をより詳細に、かつ同一の基準で把握することができるため、都市計画や地域開発、防災・環境計画、公害対策、市場・商圈分析、学術研究等広範な分野で利用されている。

このように作成した地域メッシュ統計には、次のような利点がある。

- (1) ほぼ同一の大きさ、形状で区分されているので、地域メッシュ相互間の事象の計量的比較が容易である。
- (2) その位置や区画が固定されていることから、区域の境界変更や地形、地物の変化による影響を受けることがなく、地域事象の時系列比較が容易である。
- (3) その地域内のメッシュのデータを合算することにより、必要な地域のデータが容易に入手できる。
- (4) ほぼ正方形の形状であることから、位置の表示が簡便にでき、距離に関する分析、計算、比較が容易である。

一方、地域メッシュ統計の作成については技術的な難しさがある。地域メッシュは緯度・経度によって区切られているが、通常、統計データは不規則な形状・面積の地域単位（調査区）で調査され、集計されている。したがって、このようなデータを地域メッシュの区画に組み替える（以下この組み替えを「同定」という。）際、組み替え方法によっては精度が低下するおそれがある。

平成 22 年国勢調査については同定作業を総務省統計局が全国統一の方法で行っており、今回はその集計結果から本市の状況をまとめたものである。

地域メッシュの区画方法

総務省統計局を始め、国の行政機関の作成する地域メッシュ統計の主なものは、「統計に用いる標準地域メッシュ・コード」（昭和 48 年 7 月 12 日行政管理庁告示第 143 号）を使用して作成されており、本報告もこれを用いている。

なお、従来、緯度・経度は「日本測地系」に基づいて表示されていたが、測量法の改正により平成 14 年 4 月 1 日以降、

「世界測地系」に基づき表示することになった。

経緯度法による地域メッシュの区分方法

区分方法については、総務省統計局「地域メッシュ統計」をご参照いただきたい。

本報告書は、分割地域メッシュ（2分の1地域メッシュ）といい、1区画は約500m×500mで緯度は15秒間隔、経度は22.5秒間隔となっている。

秘匿・合算された地域メッシュについて

この地域メッシュデータについては、総務省統計局より地域メッシュコード（9桁）と別表に掲げる集計項目入りの統計データ電子媒体の提供を受けたものである。

本市では、この電子媒体データを「ArcExplorer」で世界測地系のメッシュコード地図に関連付け、地域メッシュ統計地図を作成している。なお、ArcExplorer(<http://www.esri.com/products/ArcExplorer/index.shtml>)とは、米国Esri社が開発したGIS普及のための再配布可能なフリーソフトである。

この総務省統計局より提供されたデータについては「世帯総数」及び「男女別人口総数」等の秘匿されない事項以外の数値については、あらかじめ秘匿・合算されたデータとして提供されているため、秘匿項目にかかる合計値、各階層別の値等については、原データが特定できないため、秘匿・合算された各メッシュの値をそのまま表示している。

また、データがないメッシュ区画は空白としている。

学術研究、商用目的等でご使用になる場合は、データが総務省統計局からのものであることを標記していただきますようお願いいたします。

用語の解説

人口総数：常住人口。常住人口とは国勢調査（平成22年10月1日）時に調査の地域に常住している者をいう。

年齢区分：年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）

老年人口比率：65歳以上人口が全人口に占める割合（不詳分を除いて算出している）